

京阪病院

(平成 26 年 4 月 15 日訪問)

平均在院日数 336 日(平成 26 年 3 月 31 日時点)

積極的な取り組みなど

・ 中庭や 10 病棟の前には木や花が沢山植えられ、椅子が多く置かれていた。患者が病棟から出てきて気分転換ができる場となっていた。患者が職員に付き添われて出てきている様子が何組か見られた。

前回の訪問(平成 19 年 9 月)から改善されていた点、未改善点など

- 昭和 47 年築の 10 病棟の建て直しはされておらず、病院として改築する意向はあるが、まだ具体的な検討は始まっていないとのことだった。
- 10 病棟の浴室は前回の訪問後に改修工事がなされ、冷暖房が付き、浴槽に入るための段が設けられるなど改善されていた。
- 電話は 10 病棟では、人通りの多い病棟出入口付近の詰所前にあることは変わっていない。近々、デイルームの隣の談話室内にある喫煙室を閉鎖し、その場所に電話を移動させるとのこと。
- 薬の渡し方は、職員が病室をまわって手渡すようになっていた。

病院全体

人権委員会・意見箱

人権委員会の委員長は医師で、開催頻度は月 1 回。外部委員として、議題によって顧問弁護士が委員会に参加することもある。意見箱は各病棟と外来に設置され、回収は院長秘書が行う。本館では電話室内に、10 病棟ではデイルーム近くの人通りの少ない場所にあった。用紙、筆記具も置かれ、「ご意見やご要望はご自由にお書きください」との貼紙があった。

診察

本館には診察室があったが、10 病棟には診察室がなく、詰所内で診察が行われていた。

薬

職員がカートに薬をのせて病室をまわり患者に手渡す。自己管理の患者は病棟ごとに 0~3 名ほど。以前は病院全体で退院支援の一環として薬の自己管理を勧めていたが、そのような患者の多くが退院したため、自己管理者数が減ったとのことだった。

金銭管理

病院管理料は 108 円/日、鍵付きロッカーは 1 回の入院につき 500 円でほとんどの患者はロッカーを借りる。自己管理をする患者は本館では 36 名、10 病棟では 17 名。売店では現金か伝票で購入する。

面会

面会は本館では多く、10 病棟では少ない。面会時間は平日 13:00~16:00、日祝日 10:00~11:00 と

13:00~16:00。面会場所は面会室かデイルーム。

PSW

病棟担当 6 名、デイケア担当 2 名。地域連携室に PSW の机がある。決められた制服を着ていた。

その他

毎週金曜の昼食は、魚か肉かを選択できる。朝食は 1 週間のうちパンが 4 日でご飯が 3 日。

10 病棟では 1 階の浴場を 3 つの病棟で使っていた。平成 20 年ごろに改修工事が行われたというが、その後の経過の中で壁の一部が剥がれていた。

病棟の様子

電話

本館では電話室に設置。電話室の扉は引き戸で、入ると自動点灯して空調も効く。2 畳ほどの広さで車椅子でも室内で方向転換ができる。電話の置かれている台は低めだった。10 病棟では病棟出入口付近の詰所にあった。各病棟の電話のそばには平成 25 年度版の福祉制度の冊子があった。

携帯電話は入院時に家族が持ち帰るか、詰所に預ける。充電は無料。基本的には病棟外で使用するようになっていたが、本館であれば、病棟や病状によっては電話室で使用できる患者もいるようだ。

喫煙室

各病棟に喫煙室があり、鍵はかかっていなかったが、本館では室内に誰もおらず、10 病棟でも使っているのを見かけたのは 1~2 名だった。禁煙治療が進んでおり、近々喫煙室を閉鎖する。

介護療養病棟 (閉鎖 男女 介護保険適用 50 床)

【病院側の説明】認知症の患者が中心で 41 名のうち 1 名が任意入院で、その他の患者は医療保護入院。病棟の平均在院日数は約 1,300 日。職員は担当制。院内散歩や病棟レクリエーションもするようにしている。職員に話し掛けてもらうことが大事だから、24 時間詰所のシャッターは下ろさない。ショートカンファレンスを週 1 回は行う。面会のある患者とない患者は半々である。週 2 回病棟レクを病棟スタッフで行う。看護師・ケアワーカーとも患者 4 人に 1 名受持ち。

おやつは 15 時に基本的に同じものを食べる。オムツ使用患者が多いのか、尿の臭いがした。3F は病室入口横にある部屋番号の上に入居者の名前を書いた紙が貼ってあった。「〇〇様のへや」と大きな字で書かれたものが貼ってある部屋や、矢印と「トイレはこちら」と書かれた紙が廊下の各所に貼ってあった。

デイルームにある椅子と机は窓側に寄せて置かれていた。他の病棟よりも TV が大きく、みんなで紅白などの録画を見るために特に要望して大きな TV になった。4 月 11 日のお花見の時の写真が貼られていた。OT のスケジュール表が詰所内に貼られていた。

1 病棟 (閉鎖 男女 急性期治療 38 床)

38 床中、男性 17 名、女性 8 名、計 25 名が入院していた。平成 26 年 2 月から急性期治療病棟になった。薬の自己管理 0 名、金銭の自己管理 9 名。毎日、院内外出する患者は 3~4 名、看護師同伴で売店に行く患者 2 名、その他の患者は伝票で買物をする。

デイルームでは 14 時 15 分から病棟 OT が行われ、患者 7 名と職員 2 名が CD を聞く、新聞を読む、話をする等、自由にしていた。広い廊下では患者が 3 人ずつ 2 組いて、若い職員と楽しそうに話っていた。

詰所はオープンカウンターだった。デイルームは男性病室側と女性病室側の 2 ヶ所にあった。どちらのデイルームも窓から外の景色がよく見え、日当たりも良かった。20 インチ位の TV、肘掛つきのソファが 1 名用 5 つと 2 名用 1 つ、丸テーブルが 3 つあった。

食堂の奥にシャッターの閉まったカウンターがあり、おやつの時間には開き、職員が中から預かっているおやつを患者に渡すとのことだった。

病室は個室と 2 人部屋。シャワー・トイレ・洗面所付の A 個室は 2,700 円/日、トイレ・洗面所付の B 個室は 2,160 円/日。病室の入口には部屋番号だけが表示され、氏名は出ていない。扉が閉まっている部屋も多かった。扉が開いていてベッドで寝ている人の姿が見える部屋もあった。ベッド周りのカーテンを閉めている患者も多かった。トイレにナースコールがあった。

隔離室・個室

男女どちらもが使える 7 床と、男性専用、女性専用が各 1 床。部屋の種類は 3 種あり、(a)重篤な時(興奮時)に入る隔離室 2 室、(b)個室に転用可能な隔離室 5 室、(c)施錠できる個室 2 室の合計 9 室があった。このゾーンは、詰所にモニター 5 台があり、室内の様子が写っていた。女性患者のモニターの上に紙がかけられていた。(a)(b)(c)の間の廊下は広く、水曜日はここで体を動かすストレッチ体操など OT が行われる。トイレの上に換気口があり、24 時間換気していた。

(a)南側に窓があり、その手前に職員用通路があった。窓にはレースと遮光性の高い厚いカーテンがかけられていた。トイレは洋式で壁の囲いがあった。手洗いは自動水栓。モニター TV と集音マイクがあった。ベッドは壁に収納して、マットレスを敷く場合もある。前室には鏡付きの洗面台があった。食事は専用の食器を使用し、ポールの間から出し入れする。職員によると「1~2 週間ほどで他者に迷惑にならない状態になると、午後 1 時~4 時の間だけ扉開放となる。患者によっては躁が激しい時はこの隔離室の使用が 1 ヶ月になることもある」との説明だった。

(b)個室として使用時は、本などの私物が持ち込める。ハード面は(a)と同じ。

(c)南西に面した窓は大きく、とても明るかった。カ

ーテンはなかった。光で治療効果のある患者用の部屋として使用することもあるとのことだった。窓は 15 cm ほど開く。日が当たるとベッドを移動させるとのこと。トイレの扉は入室者の状態に合わせて使用できるようにも、できないようにもなる。窓から外の景色は遠くまで見渡すことが出来て開放感があった。

患者の声

「入院して 7 日目。ここに何で連れてこられたのかな。親が代理で手続きした。歯間ブラシや綿棒を部屋に持ち込めない。借りに行くのも他人の手がいる。化粧ポーチは詰所預かり」「(車椅子の男性)トイレが広くて使いやすい。診察は、不足はないが満足でもない程度に話を聞いてもらえる。詰所の奥で週 1 回ある」「おやつの時間以外でも職員に頼めば出してもらえる」「新聞は病棟になく OT の部屋に読みに行くか OT の時間に読む」「個室にトイレはあるが鍵がかけられているので、共同のトイレを使う」

2 病棟 (閉鎖 女性 精神一般 15:1 40 床)

多い月には 5 名ほどの退院がある。患者は 1 病棟から転棟してくる。訪問時は外泊中の患者が 2 名。平均年齢は 50 代後半~60 代前半。入院者に年齢層の差がある。認知症に近い患者もいる。塗り絵やオセロなどに誘う。応じていただけない患者もいるが、熱心に上手に絵を書いてびっくりすることもある。月 1 回は面会のある患者がほとんど。

4 人部屋と個室があった。4 人部屋ではベッド周りにはカーテンがあり、隣のベッドとの間には棚とダンスが一体となった間仕切り家具があった。透明衣装ケースをベッド横に置く患者もいた。カーテンの閉まっている部屋が多く、絵やポスターを壁一面に貼っている患者もいた。おやつの時間は終わり、食堂奥のカウンターにあるシャッターは降りていたが、職員に頼んでおやつを出してもらっている患者がいた。

患者の声

「一番困っていることは同室の人と相性が良くないこと、高齢で無神経な人にあたると、こちらが我慢し過ぎるといつか爆発してしまいそう。看護師に相談しても解決にはならない。CD の中身を盗られた。今は、音楽を聴くのも嫌な感じ。鍵付きロッカーは幅数 cm 分、その 3 倍くらいの引き出しの鍵付きロッカーがあれば、こんな思いはしないで済んだ。大きい収納があればいいな」「4 人部屋なら衣装ケースに服を入れておける。診察は週 1 回、長い時間、先生の話聞いている。職員の言葉遣いは丁寧」「ノートに書いて院内散歩する。詰所預かりのライターを持って出る」「半年入院している」「相当長く入院している」

10 病棟

10 病棟は 3 階建てで、屋外に各階を結ぶ広めのスロープがある。病室は 4 人部屋が中心、各室に TV があつた。患者からは「好きな番組を見ている」「あまり見ない」との声があつた。TV代は 22 円/日。

10A 病棟（閉鎖 男女 精神療養 36 床）

日々外出をするのは 20 名ほどで、行き先としては中庭か売店がほとんどだつた。病棟に入ってすぐのところに詰所とデイルームがあり、ほとんどの患者がそこにいた。OTプログラムの発声をしていた。

高齢の患者が多かつた。病棟全体で少し尿の臭いがした。ベッド周りにはカーテンがあり、閉まっているところもあつた。枕元の上にある棚にはおむつや洗面器、洗剤の箱など比較的軽いものを置き、衣類の入つた衣装ケースは床に置かれていた。

患者の声

「ここはのんびりできていい。4 人部屋にも慣れた。部屋のなかでトラブルになることもないし、病棟から外への出入りは自由だし。(看護師に)言えば出れる。ついさっきも売店まで行ってきた」「20 年以上入院している。9:30~16:00 すぎは自由に外出ができる。退院支援の事業で施設に見学に行ったことはある」

10C 病棟（閉鎖 男女 精神療養 33 床）

OTプログラムで歌を歌っていた。ポータブルトイレが 10A 病棟より多く置かれ、蓋のあるものとなないものがあつた。10A 病棟より個人の荷物が少なく、ベッドの上の棚も空いており、衣装ケースも少なかつた。

患者の声

「OTプログラムの喫茶でコーヒーを飲むのが楽しみ」「大きな声を出す患者がいてしんどい」「ずっと病棟にいるとしんどいので売店や中庭、近所のコンビニなどへよく出かけている」「おやつは好きなものを売店に買いに行けるのがいい」「洗濯機は 6 時から 19 時まででき、毎日している。100 円玉がないときは売店で飲物を買ってお札をくずす。事務所で両替してくれるが頼みにくい。診察は主治医が病室まで来てくれるが、診察を受けたいときに受けさせてくれないことがある。本館まで行って診察をお願いすると事務所の人に断られ、追い返される。退院の話はある。主治医から『マンションが見つかったら退院できる』と言われて自分でマンションを見つけて来たら、今度は『マンションが本当かどうか確認がとれたら退院』と言われた。退院の話はこれからも続けていくけど、そのことで誰かに相談することはない。自分でやっていく」「他の人に裸を見られたくないからお風呂は入りにくい。1 人でゆっくり入りたい。外出は連れて行ってもらえない。病気の説明は診察時に聞いているが最近医師が変わつた。退院の話は出ている」

検討していただきたい事項

意見箱への当所に対する回答について

病院からの回答は、掲示する時としない時があるとのことだつた。(病院: 了解が難しく読解不可な意見を除き掲示を行なっております。)

10 病棟の診察場所について

診察室がなく、診察場所は詰所内とのことだつた。(病院: 病棟内で診察する場所を確保することは難しく、衝立やスクリーンを使用することを検討します。建替の建築委員会を設置し、今年度中の着工を目指しており、独立した診察室を確保しております。)

退院支援

2 病棟では「看護師は担当制で、以前は週 1 回のカンファレンスがあつたが、患者の状況に変化のない回が続いたためなくなつた」との説明があつた。また、全患者に担当 PSW がいるとのことであつたが、患者からは 10C 病棟では「(PSW について尋ねると)そんな人がいることは知らない」「心配なことや困り事は誰にも言えないし、相談しない」との声もあつた。(病院: 担当相談員を各患者に知らせしていますが、相談員、ケースワーカー、PSW と呼称が統一されず、患者に迷惑をおかけしている可能性があります。今後呼称の統一を検討します。相談窓口についても患者にわかりやすく病棟内に掲示していきます。カンファレンスについては、適宣行なっております。)

入浴回数とシャワー室の利用しやすさについて

入浴回数が週 2 回であることについて、「少ない」との声があつた。シャワー室については「自由に使える」「職員に『使いたい』といいにくい」「使いにくい」との声があつた。(病院: 入浴回数を 3 回に増やす方向で検討しています。シャワーについては、時間を決めて患者に使用していただけるよう再度徹底します。)

精神保健福祉資料より(平成 25.6.30 時点)

251 名の入院者のうち統合失調症群が 147 名(59%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害が 62 名(25%)、気分障害が 29 名(12%)。入院形態は任意入院 95 名(38%)、医療保護入院 155 名(61%)、措置入院 1 名(0.4%)。在院期間は 1 年未満が 92 名(37%)、1 年以上 5 年未満の患者が 82 名(33%)、5 年以上 10 年未満の患者が 48 名(19%)、10 年以上 20 年未満が 15 名(6%)、20 年以上 14 名(5%)。